

いよいよ夏休みですね。マスク生活も手伝ってか、ここ数日熱中症のような症状の方が増えてきました。これだけの暑さの中、野外で活動するにはそれなりのエネルギーが必要です。いつも以上にバランスの良い食事をしなければ体がもちません。調理でどうか食べさせる工夫をして、元気にこの夏を乗り切ってくださいね！

院長 池澤 滋

感染症情報 6/20~7/17	前回	今回
アデノウイルス	2	2
溶連菌感染症	1	1
感染性胃腸炎	167	131
水痘(水ぼうそう)	0	6
手足口病	4	19
RSウイルス	0	1
突発性発疹	16	14
りんご病	1	0
ヘルパンギーナ	0	0
キャンピロバクター	4	0
インフルエンザA	0	0
インフルエンザB	0	0
おたふく風邪	0	0



住所：合志市野々島 2461
(ユーパレス弁天 北側)
TEL：096-242-6633
診療時間：9：00～/14：00～18：00
休診日：木曜・土曜午後・日曜祝

在りし日のお姿を忍びつつ

先月とてもショッキングな事件が日本中を駆け巡った。元首相の銃撃事件。さっきまで声を出して話していた人が、一瞬で命を落としてしまう場面がテレビで繰り返し流れる。痛ましく現実とは思えない光景に私は目を覆った。この事件に触れ、多くの人々がそれぞれに考えたことだろう。人は一瞬で亡くなるということ。突然命が亡くなることもあるということ。人生はいつ終わるのかわからないということ。予想もできないことも起こりうるということ。まさか、こんなに早く人生が突然終わるなんて誰も予想しなかったはず。朝「行ってきます」と出ていった夫が帰らぬ人になることもあるかもしれないということ。何か事件に巻き込まれたり、車で交通事故に遭ったり。この瞬間も日本のどこかで、世界中で、誰かの大切な命が突然失われていて受け入れ難い現実の中で残された人生を生きている人がいるということ。そしてそれは自分も同じであること。いつ、どんな形で命が終わるかわからない。大切な人がいない世界はどんな世界だろう。どんなに孤独で虚しいだろう。どうやって生きる希望を見つけるのだろう。そのあとの人生にどんな喜びや幸せを感じる事ができるのだろうか。



「LINEで予約の確認が属しようになりました。」
「LINEで予約の確認が属しようになりました。」

「お待たせです。診察が始まります。お早めにご来院ください。」

「本物です。これを読み込んでください。」

「用心者番号とパスワードを入力してOKを押せば完了です。」

実話

「LINEで『もうすぐ』と受診のお知らせが届きます。目の前のことに必死なお母さんの為ー！」

「LINEで『もうすぐ』と受診のお知らせが届きます。」

4コマまんが
作・絵
ちえこ&もみこ

今度の事件でいつも側にいる人がどれほど大切な存在なのか、きっと考えさせられたのではないかな。そう思えば、今日この瞬間から私たちの掛ける言葉は明らかに変わってくるはずだ。実は半年前安倍元首相の側近の方のお話を聞く機会があった。2年前の人吉の災害の時、いち早く現場にお見えになった元首相。真夏なのに寒くてガタガタと震え、着込んでいたという。それは持病によるものだった。潰瘍性大腸炎が悪化し顔は青ざめていたが、一国のトップがそんな状態だと知られてはいけな。政治家はそんな仕事なのだとおっしゃっていた。

コロナが流行し始めた2年前、事例もなく混沌とした世の中で指揮をとられた元首相。非難される場面もあったが、あの時もその時も、もしかしたら体の不調と闘いながらテレビに映っていたのかもしれない、そう思うと本当に心が痛い。政治家も私たちも同じ人間だ。生活の中で平気を装って、本当は無理をしながら仕事に出たり、育児や家事をこなしたりする日もある。そんな時、1番支えになるのは紛れもなく家族、そして側にいる大切な人だ。1番近くで自分を支えてくれる存在がどれほど尊いものか、人生がどれほど儚いかを突きつけられた。

文責 池澤 千恵子

